

# ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

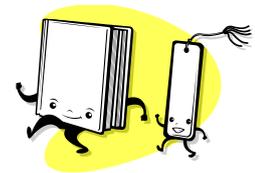
No. 125

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

問) 昭和14年から昭和20年頃に出版された絵本を見たい。

答) まず初めに「絵本」をことばから検索してみます。

図書 → ことば → 絵本 ⇒ 292件



次に、検索結果一覧から、出版年月で絞り込みします。

絞り込みボタン

出版年月 → 昭和 14年 1月 から 昭和 20年 12月 ⇒ 20件

『安壽姫と厨子王丸』(726/Su14) 開架児童

『タノシイ オテツダヒ』(726/Ku37) 閉架

『センスキカン』(726/Mu43) 閉架

『幼児標準絵本3 ムラノコドモ』(726/Ta62/3) 閉架

開架⇒閲覧室書棚にあります。ご自由にお手に取りください。

閉架⇒書庫の中にあります。係の者にご請求ください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

## 戦地を巡る慰問団 わらわし隊



朝日新聞社が日中戦争期に組織した慰問団の中に、「わらわし隊」という一風変わった名前の一団がありました。これは前線で奮戦する数多くの兵士たちを、漫才や落語といった演芸で慰問することを目的として発足したもので、この朝日新聞の動きに協力したのが吉本興業でした。

当時、抜群の人気を誇った横山エンタツや花菱アチャコ、ミスワカナら吉本所属芸人たちが、そのメンバーとして組織され、前線を訪れたスターたちを、兵士たちは熱狂的に迎えました。

なかでも紅一点のミスワカナは大人気。兵士たちは、芸人たちが引っ込もうとしても拍手をやめず、10分また10分と延びて3時間半の長演となりました。

ワカナは帰国後、「わらわし隊」と題した玉松一郎との漫才で全国的な人気者となりました。その半生を描いた舞台劇「おもろい女」では、女優の森光子さんが主演を演じています。

わらわし隊を観た元兵士が次のようなコメントを残しています。

「『ミスワカナ』がですね、※「金色夜叉」を支那語を交えながら唄うんですよ。熱海のリュタ、リュータ、なんてね。リュタというのは散歩という意味です。で、貫一、お宮のリャンコレン、と。リャンコレンというのは二人連れという意味なんです。これには本当に喜びました。懐かしい日本のことも思い出せるし、それが支那語になっているのがなんだかおかしくてね」

「拍手、拍手でみんなとても喜びましたよ。でもね、中には涙を流している人もいましたね。泣いている人、結構多かったと思います。それから、ミスワカナが日本の着物を着ていたように記憶しています。それを見て、懐かしいなあとしみじみ思ったような覚えがあるんですね」

(『戦時演芸慰問団「わらわし隊」の記録』(210.7/H47)より抜粋)

\*\*\*\*\*

※『金色夜叉』・・・明治42年 作詞・作曲：宮島郁芳

熱海の海岸散歩する 貫一お宮の二人連れ

共に歩むも今日限り 共に語るも今日限り



『朝日新聞の秘蔵写真が語る戦争』(210.7/A82)

『こんな落語家があった』(779/Ko39)

『大衆芸能資料集成 第7巻』(779/Ta24/7)

—図書室から—

特別企画展 終戦65周年記念「銃後の人々と、その戦後～出征遺家族の資料を中心として～」

平成22年7月31日(土)～8月29日(日)まで昭和館3階 特別企画展会場にて開催致します。

ぜひお気軽に足を運んでみて下さい。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 125

2010年7月21日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1